

1. 教育の責任

栄養教諭二種に関する科目では「学校栄養教育論（1年後期）」、「栄養教育実習（2年通年）」、「教職実践演習〔栄養教諭〕（2年後期）」を担当している。これらの科目では、栄養教諭としての実践的指導力の育成と、栄養教育実習に向けた準備、学外での栄養教育実習を含む教職での学びの総まとめについて、教職課程全体の学びの成果を学生に意識づけられるよう指導している。

2. 教育の理念と目的

食物栄養学科では、栄養士は「栄養学に関する知識や技能をツールとして社会の発展(人びとの健康の維持・増進)に貢献する専門的職業人である」ととらえ、「根拠に基づきながらも対象者によりそった栄養の指導と給食の提供をできる栄養士」の育成することを目標としている。

栄養教諭は、栄養士としての専門性をもった教員であり、栄養士の専門的知識を教員として食育指導に活用できる力を身につけること、学校における栄養教諭の役割を理解し、児童生徒・教職員とのコミュニケーション力を身につけること、保護者との関係性を理解することが必要であると考えます。

具体的には、栄養士として様々な健康状態の児童生徒に対する安全な学校給食管理・運営を行うこと、学校給食を食育教材として活用しながら、児童生徒の発達段階に応じて学習者の気づきや学びを促進することができるようになる必要がある。そのためには、発達段階ごとの食育指導の段階を踏まえ、実際の指導対象となる児童生徒の理解が不可欠である。児童理解・生徒理解のために、学生が自分ですべきこと、できることを思い描けるように指導していきたい。

3. 教育の方法

「学校栄養教育論」では、学校における栄養教諭の役割、児童生徒への食育指導の目的や指導方法について講義を行っている。特に、発達段階に応じた食育指導の段階的な目標、指導計画、学年に応じた指導の実際、学校給食を活用した指導の実際について、できるだけ実例を交えて具体的に理解できるように指導している。学年に応じた指導場面については、学習指導案や授業の様子などの映像教材に解説を加えながら、実際のイメージを持てるようにしている。また、学校給食を活用した指導については、食育指導に活用できるようにするための献立作成の観点、学校給食を活用した児童生徒・保護者への指導場面の映像教材を活用し、学校給食を体験的な食育教材として活用することが理解できるようにしている。

「栄養教育実習」では、事前指導として、教員や社会人としての児童生徒や教職員とのかかわりの心構え、学習指導案・教材作成、模擬授業の実施など研究授業の準備などについて実施している。特に、研究授業の準備を行うだけでなく、教員として児童生徒と関わることについて、社会人として他の教職員とコミュニケーションを取ることに重点を置いて指導している。栄養教育実習は実習期間が限られていることから、実習期間中は自分の研究授業の準備だけに集中するのではなく、気持ちに余裕をもって児童生徒と関わることをできるよう、実習前にできる限りの授業の準備は行うよう指導している。事前指導では実習に向けて履修者全員が到達目標を達成することから、一斉指導で十分でない場合は個別に指導を行っている。実習中の研究授業に関する学生へのフォローや事後指導では、学生の実情に応じた個別の指導が必要であるが、その際は実習校からの学生への要望や評価を踏まえて指導を行っている。

「教職実践演習（栄養教諭）」は、2年間の教職課程の学びの総まとめとして位置づけられていること

から、学内と実習での学びを統合し、小・中学校での実践のイメージを持てるような演習課題を行っている。栄養教育実習で学生が実践する指導としては、研究授業の実施と給食の時間の指導が主なものとなるが、実際の栄養教諭は全校集会での指導や給食委員会の指導、個別指導など、食育指導を行う場面は多岐にわたっている。これらについては、実際の指導資料や映像教材の例を活用し、学生各自の栄養教育実習の経験と統合しながら、栄養教諭として指導する際にどのようなことを行うか考えることができるように指導している。

教職履修者は2年間を通じて「教職課程の自己評価（履修カルテ）」を記録し、自分の学習成果を振り返りながら自己課題を明確にすることができるようにしている。自己評価の方法は教職と栄養教諭に必要な資質能力について、項目ごとに判定基準を参照しながら4～1の評点を選択する方法とし、項目のグループごとにコメントを記述することとした。学生が記録した自己評価に対しては、コメントを記入してフィードバックを行っている。また、学生が自己評価を行う際には自分が到達できていない部分にはばかり注目し、ネガティブなイメージを持つことがないように、自分が到達できた部分にも着目するよう指導している。

4. 評価と成果

これまでの教職履修者の学修状況をみると、各自教職履修に目的意識をもって真摯に取り組むことができていた。実習校による栄養教育実習の評価、教職科目での課題の内容や成績評価、教職課程の自己評価の記録、実習の事前・事後指導から判断すると、到達目標はおおむね達成できていた。また、実習校の評価では、授業の指導技術は経験不足の面もあり十分ではないものの、教員としての資質や社会人としての振る舞いについては高い評価をいただいた。

学生自身の自己評価をみると、各自が自分の到達度を客観的に捉えることができていた。評価項目のうち「保護者や地域との関わり」については学習が不十分であると感じていた。栄養教育実習の際にもほとんど経験する機会がない部分でもあり、2年間の教職課程の中でどのように扱っていくかが課題である。

5. 今後の目標

【短期目標】

- ・教職履修者が2年間を通じた学びのイメージをもてるよう、教職ガイダンスを適時実施している。年度によってばらつきがあるものの、教職履修を取りやめる学生が多くなってしまうことがある。ガイダンス内容は毎回見直しているが、実施方法や内容の改善が必要である。次年度は実施時期、内容等を含めて全体的に改善していきたい。

【長期目標】

- ・栄養教諭の職務内容や教職課程での学びについては、教職ガイダンスや授業を通じて伝えているが、学生にとっては実際の栄養教諭がどのような職務内容であるか実感しにくく、教職履修に対するモチベーションが下がってしまう学生がいる。学生が教職課程の学修に対して自分の目標を持てるようにするためにも、栄養教諭の職務の具体的なイメージを伝えていくことが必要であると思われる。今後は栄養教諭像の具体的なイメージや、学生に伝える時期、方法について検討していく。